

校長室から

栗真小学校で2年目を迎えます。本校のシンボルともいべきシイの木を眺めていても、3月11日の東日本での大震災と原発事故により、1ヶ月以上経った今もその深刻さと不安が増すばかりです。

また、未曾有の大災害に直面し、家族や知人を失った児童が何千人もいるようです。一日も早い、子どもたちへの生活支援、心のケア、そして学びの環境の整備が必要です。歯がゆい思いや無力感を感じるばかりでなく、被災した人々に追い打ちをかけるような風評被害に対しては、確かな姿勢を子どもたちには示さなくてはならないと考えています。

東海地方では、すでに地震・津波に対する警鐘が鳴らされていますが、子どもたちには、新年度より、あらためて災害時の安全について確かめていきます。

そして、本校の教育の特色でもある以下の事項に努めていきたいと思えます。

- 少人数を生かした、基礎・基本の学力を定着させる。
  - ・くりまっこタイムでの担任外の教師も入った重点的・基礎学習期間を設ける。（6月：3年、割り算 など読み聞かせと同様に）
  - ・児童一人ひとりの力を高められるような授業を進める。  
そのため、教師の授業研究を進める。
- 地域や外部の教育力を積極的に取り入れた、かがやき学習を進める。
  - ・地域を教材として、ゲストティーチャーを招いたり訪れたりするなど、人や地域から学ぶ“かがやき学習”を推進する。
  - ・三重大連携を中心にした外部の教育力を積極的に活用して、体験活動を充実することにより、児童の社会性や豊かな人間性を育成する。
- 気持ちの良い“あいさつ”ができるようにする。
  - ・他人を大切にし、自分も大切にする子どもをめざし、心を伝える基となるあいさつを育む。
  - ・「早寝、早起き、朝ご飯」も含め、家庭と連携してよりよい生活習慣を身につける。

4月28日